

---

 書 評 ・ 紹 介
 

---

Kenneth W. Wachter

*Essential Demographic Methods*

Harvard, 2014, xvi + 288pp.

本書は、Kenneth W. Wachter 氏による人口学方法論の教科書である。氏は形式人口学・数理人口学の第一人者であり、現在、カリフォルニア大学バークレー校人口学部の名誉教授である。彼は、長きにわたって人口学部で方法論の教鞭を執ってきており、本書はこの講義で使われてきた教科書を書籍として刊行したものである。

本書は11の章からなり、序の「なぜ人口学を学ぶのか」に続いて、第1章 指数関数的増加、第2章 期間とコーホート、第3章 コーホート死亡、第4章 コーホート出生、第5章 人口推計、第6章 期間出生、第7章 期間死亡、第8章 異質性のあるリスク、第9章 結婚と家族、第10章 安定年齢構造、第11章 移民と位置という構成となっている。バークレー人口学部の方法論の講義は、学部生向けの110 (Introduction to Population Analysis) と院生向けの210 (Demographic Methods: Rates and Structures, Population Models) から成るが、本書はこの両方で教科書として用いられてきた。院生向けの内容は目次と演習問題に星印が付けられているので、初学者は初めて読む時にはこれらを飛ばすことにより、人口学方法論の基礎的な部分のみを効率的に学ぶこともできる。

Wachter 氏の講義の素晴らしさの一つは、高度な数学に関する知識がない人にも、数学の本質を損なうことなくわかりやすく方法論を教える点にあるが、本書でもその一端に触れることができる。例えば、仮設コーホートの説明を読んでいくとシェイクスピアの「お気に召すまま」の一節が登場するが、このような文学作品を交えながら語っていくところに、一見難しく感じる手法をやさしく学べるようにしてしまう彼のマジックを垣間見ることができる。また、単に手法の解説のみならず、それぞれの手法が持つ背景や関連性を含めて丁寧に解説がされている点も、方法論への造詣が深い Wachter 氏ならではといえる。例えば、第7章も期間生命表の通り一遍の説明に留まることなく、生命表のモデル化はニュートンの万有引力の法則の発見に触発され「死亡法則」を導こうとした意志に端を発すること、グラントによる最初の生命表自体も実はモデル的な生命表であったことなどが語られる。その後、コール・ディメインのモデル生命表、プラスのロジットモデル、そして現在、将来推計で最もよく用いられるリー・カーター・モデルへと話は展開していくが、実はリー・カーター・モデルの構造はコール・ディメインのモデル生命表と本質的に同じという点が解説されている。これらは、生命表モデルにまつわる様々な手法が決してばらばらに生み出されたものではなく、その学術的進展の歴史や根底にある思想のレベルで深い繋がりを有していることを示すものともいえるが、このような解説は人口学方法論に一定の知識を持つ研究者にとっても含蓄に富むものといえよう。

さらに、本書のもう一つの特色として、記述内容や演習問題が、バークレーの人口学部の講義や演習などで多くの学生等による使用を通じて洗練がなされてきており、質が高く、教材としても安心して利用できる点が挙げられる。本書の Appendix A に情報源と注釈の節があるが、ここには過去、バークレーの人口学部の学生等が、講義等を通じて様々な内容に関する提案や改善を行ってきた歴史を見ることができる。

本書は、空間人口学など近年の新たな動向を踏まえた第11章が追加されるなど、筆者が在外研究で読んだ時よりもトピックスが追加されており、人口学の初学者のみならず最先端の方法論に関する知識を得たい読者まで、幅広い層に有益な書ということができよう。バークレー人口学部出身の人口研究者の中で、Wachter 氏のこの教科書は人口学方法論の共通言語となっているが、本書の刊行によって、この教科書が全ての人口研究者にとっての共通言語へと進化を遂げる日が来るのかもしれない。

(石井 太)